レビー小体型認知症サポートネットワーク京都
第５回交流会　活動報告書

日時：2019 年 1 月 19 日　13:30～16:00
場所：京都府立医科大学臨床講義棟
内容：医師の講話とグループワーク
参加者：　20 人

京都での交流会は 2 年目を迎えました。ボランティアでの活動であり行き届かないところもありますが、参加いただいた方々に少しでも参加してよかったと思っていただける交流会となるよう今後も努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第５回交流会では、地域で開業されている脳神経内科医である杉本先生の講話と交流会を行いました。以下にその内容（一部）を報告いたします。

- 講話テーマ「それってレビー小体型認知症？　大脳皮質基底核変性症候群（CBS）、進行性核上性麻痺症候群(PSP)は考えてみた？」
  講師：中京区認知症連携の会　杉本医院　杉本医師

今回の講話はレビー小体型認知症と類似症状をあらわす、2 つの疾患についてのお話でした。その一部をご報告いたします。
CBS と PSP はレビー小体型認知症と症状や検査（ダットスキャン）所見がよく似ていることから、確定診断を的確に受ける必要があります。CBS の症状の特徴には、身体の左右のどちらか一方に症状が出やすいというところが特徴です。PSP は転倒、姿勢の不安定、嚥下困難が見られ、レビー小体型認知症の治療薬で悪化する場合があります。
診断名と症状に違和感を抱いたら、医師に相談してみることが大事です。

- 交流会

1~2 家族と医師、ケア専門職が 1 グループとなり、概ね 5~7 名、5 グループで交流会をしました。
今回は体調不良で欠席者が多くありましたので、小グループでじっくりと交流をもちました。
参加者の質問としては、薬の副作用・調整、診断名があっているか、デイへ行きたがらないが参加を勧めるべきか、介護者は本人と適度な距離感を持つことの大切さなどが話し合われました。

- 参加者の声

【家族】：レビーという病気を身近に思いました。初めての病名に対する恐怖心が少し和らぎました。新しい情報も収集できたので参加して良かったと思います。専門職との交流がとても役に立って安心感を持ちます。皆さんの体験談を聞く事でほっとしたり、同じだなあとか共通点を見つけて安心感を持ったりします。
家族の立場として現状を説明する事を通じて、自分たちの状況を客観的にみる機会となり有益でした。
【専門職】：（OT）当事者の話を聞く機会がない為、聞くことができて良かったです。いかに相談しやすい環境を作る事ができるかが課題になると感じました。（看護師）今回のように部屋を分けたことで落ち着いて話ができました。